



編集: 安齋育郎、山根和代

翻訳者: 赤松敦子、寺沢京子、山本美穂子、狩俣英美

International Network of
Museums for Peace

2020年9月16~20日 広島・京都にて 第10回国際平和博物館会議開催決定

第10回国際平和博物館会議組織委員会の最初の公式会議が、5月22日に立命館大学国際平和ミュージアム(KMWP)で開催されました。参加者は吾郷眞一教授(KMWP館長)、加藤秀一氏(広島平和記念資料館副館長)、吉村和真教授(京都精華大学副学長)、高杉巴彦教授(池坊短期大学学長)、加國尚志教授、田中聡教授、藤岡惇教授、近藤茂生氏(立命館大学教授)、安齋育郎教授、山根和代博士、片山ひとみ氏(INMP)でした。

組織委員会はINMPが主催するこの5日間の会議を2020年9月16日(水)から20日(日)に、最初の4日は京都で、最終日は広島で開催することを決定しました。2020年9月は東京パラリンピックと京都の秋の観光シーズンの間の時期に当たり、立命館大学はまだ夏季休業中で、この会議に施設を提供するのに都合がよいということでこの時期に開催することになりました。

高杉巴彦教授が、池坊短期大学がこの会議の共催団体となる意向を示され、

全会一致の賛同を受けました。その結果、この国際会議は広島市、立命館大学、京都造形芸術大学、京都精華大学、池坊短期大学により共催されることになりました。組織委員会は吾郷眞一教授(KMWP館長)を議長に、安齋育郎教授(INMP代表)を事務局長に選出しました。



前列左から高杉・加藤・安齋・吾郷・山根。
後列左から片山・近藤・藤岡・吉村・田中・加國
(KMWPのロビーにて)

この国際会議のメインテーマは「戦争と平和の記憶の維持と次世代への継承及び平和博物館の役割」とすることが承認されました。

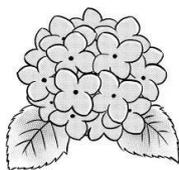
広島平和記念資料館訪問は元々会議の3日目に京都からの日帰り研修旅行として計画されていましたが、ピーター・ヴァン・デン・デュンゲン博士の助言を考慮して、組織委員会は広島訪問を最終日に入れるように計画を変更しました。国際会議の参加者が広島での滞在を延長することができるようにという配慮からです。



KMWP内の第10回INMP国際会議準備室

5月22日の会議では、組織委員会の運営規則や、プログラム委員会・出版委員会・広報委員会・募金活動委員会・財政委員会等の委員長も決定しました。会員の皆様の積極的なご参加により、この国際会議を内容豊かなものにしていただけますように、組織委員会はINMPの会員の皆様にできるだけ早く活動報告・パネルディスカッション・討論会・ワークショップ・展示等への応募方法についてお知らせしたいと考えております。

(翻訳：赤松敦子)



東京に杉原千畝博物館 Sempo Museum

杉原千畝(1900-1986)の生涯を紹介する博物館が3月に東京の八重洲に開館しました。杉原千畝はリトアニアのカウナスの日本領事館で勤務していた日本人外交官で、第二次世界大戦初期に何千人ものユダヤ人に通過ビザを発給し、ナチの迫害から逃れることを助けました。

この博物館は東京で初めてのホロコースト関係の施設であり、政府の指示を無視したために後に辞職勧告を受けることになった外交官の勇氣ある崇高な行動を褒め称えるものです。この博物館は杉原千畝の自国での名誉回復の長い努力の末について実現した成果です。この博物館の重要性はその開館式にイスラエル、リトアニア、オランダ、ポーランドの在日大使、カナダ、アメリカ合衆国の主席公使が出席されたことでも証明されています。これらの国々は杉原の劇的な救出活動に重要な役割を果たしたのです。日本の外務省代表と前閣僚も一名出席されました。



開館式のテープカットに臨む各国大使

杉原家からは杉原千畝の孫にあたる杉原まどか氏と杉原千弘氏が出席しました。この博物館を運営するNPO

「杉原千畝命のビザ」の代表である杉原千弘は祖父の遺産とこの博物館の使命について代表者挨拶で述べ、感動を呼びました。杉原氏はこの博物館が単に記念となるだけでなく、「私たちは皆ここ、この世界と一緒にいるのだということ、そして祖父の言葉を借りますと、『人道と博愛』が最も重要だということ」を皆さんが意識して、それを行動に移すきっかけとなる場となりますように」という希望も述べました。

ジョージ・ブルマン氏によるスピーチも強く心に訴えるものでした。ブルマン氏の両親もナチスから逃れようと必死だった亡命者で杉原の行動により助けられたのでした。ブルマン氏の両親は最終的にはカナダに亡命先を見つけることができました。ブルマン氏の家族は、当時亡命受け入れ先として有名だったキュラソー島のビザのスタンプと杉原千畝の印が押された両親のパスポートをこの博物館に寄託して下さいました。ブルマン氏の両親の名前も、博物館の壁にある、2000名以上になる杉原のビザの受給者リストに刻まれています。



開館日の博物館の一室

杉原千弘氏の開館式での挨拶の言葉やフォトギャラリーなどを含む開館式の様子がこちらに掲載されています。

[go here](#) 開館式の短い（1分）ビデオをこちらで見ることができます。[here](#) NPO「杉原千畝命のビザ」についてはこちらをご覧ください。[click here](#).

（翻訳：赤松敦子）

亡命博物館、ベルリン

ベルリンでの亡命博物館開館に向けて、着実に準備が進められています。2020年の第二次世界大戦終戦75年に合わせての開館が勧められていましたが、最近の報告では、2025年の開館（プロジェクトの規模と複雑さを考慮して）が予定されています。この博物館は、ナチスドイツを逃れて他国で新しい生活を始めた、何百何千というドイツ人を記念したものです。今日の移民の大きな流れの中で（ドイツも少なからず影響を受けています）、排除や他国への移住、亡命や虐殺について、かつてとは異なる感覚があります。



亡命博物館の支援者ヘルタ・ミュラー（提供：Steffen Roth）

行き過ぎた愛国主義や、宗教の対立、戦争、紛争や自然の大災害が、大勢の人を亡命へと追いやっています。そのため、この博物館の目的は、現在のた

めに過去の経験から教訓を学ぶことにもあります。新しい当博物館の主な助言者は、ヘルタ・ミュラーとベルント・シュルツ (Bernd Schultz) です。2009年ノーベル文学賞受賞者のミュラーは、1987年チャウシェスク独裁政権下に生命がおびやかされ、母国ルーマニアから逃れました。2011年に彼女は、亡命問題を扱う博物館設立のための支援を、アンゲラ・メルケル独首相宛の公開状で訴えました。美術商のシュルツは、ドイツ人亡命者の宿命を毎日のように目のあたりにしたことが、彼に亡命博物館財団を設立することを決意させました。

この博物館は、アンハルター駅という、ベルリンのかつての重要な駅に設立されます。ここは、人々が亡命へ、または強制収容所へ送られるという、重い記憶を持つ場所です。ここは、現在駅の近くに住む7割以上の住民が移民にルーツを持つという、クロイツベルグの歴史地区に位置しています。開館を目指す博物館の詳細は、こちらからご覧になれます。 [click here.](#)

こちらから、亡命博物館についての70頁に及ぶ素晴らしい解説付ブックレット (英語) のPDFファイルがダウンロードできます。 [downloaded here.](#)



かつての駅の門の一部 (博物館開館予定地の裏) (提供: Jorg Zägel)

最も長く詳細な記事 (ドイツ語) は、こちらからご覧になれます。 [this link.](#)

新しい博物館が、亡命という特殊な運命を辿った人たち、すなわち軍国主義・戦争・人権蹂躪に反対し、ナチスによる厳しい迫害を受けた勇気ある人々に、光が当たることを祈っています。(次の記事参照)

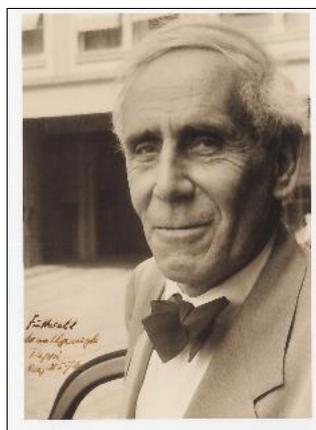
(翻訳: 山本美穂子)

エミール・ユリウス・ガンベル についての展覧会: ミュンヘン

4月26日から5月31日まで、エミール・ユリウス・ガンベル (1891~1966年) の「統計学者、平和主義者、広報官 (Publicist) としての国粋主義者とワイマール共和国への葛藤」展が、ミュンヘン技術大学で開催されました。ミュンヘンに生まれ、第一次世界大戦中にいくつもの反戦パンフレットを著し、それらを一冊にまとめた1919年の『4年の嘘』で、彼は良い意味でも悪い意味でも有名になりました。戦後、彼はドイツの極秘再軍備や、ワイマール共和国の極右暗殺集団による政治的な殺人も明らかにしました。後に彼は、『2年の殺人』(1921年)を含む、幾つかの出版を行いました。数理統計学の学者という、彼の世界的な評判にも関わらず、1932年 (ナチスが政権を掌握する前であっても) 彼はハイデルベルグ大学の教職から外された最初の一人となりました。

その数年前から、彼の政治的な考え方や出版物、平和主義者でまたユダヤ人である彼は、多くの敵意と困難に立ち向かわざるを得なくなりました。1933年ナチスは彼の出版を禁じ、著作

を燃やしました。職を迫われた後、彼はフランスへ亡命し、パリ大学とリヨン大学にて学者としてのキャリアを続けることができました。



エミール・ユリウス・ガンベル

1940年ドイツ軍がフランスへ侵略した時、再び彼は亡命しなければなりません。スペインとポルトガルを通過しての劇的な避難を経て、彼は最終的にニューヨークに落ち着きました。そこで彼は、化学の分野に再び取り組み、今日でも彼の代表的な作品として挙げられる、科学的な著書『極値の統計 (*Statistics of Extremes*)』(1958年)等を書きました。1966年の彼の死は大西洋の左右の立場の同僚達に悼まれましたが、彼の故郷ドイツでは全くといっていいほど忘れ去られてしまいました。

ガンベルは、ローラ・フェルミの大変興味深い著書『輝かしい移民: *Illustrious Immigrants*』(副題「1930~41年ヨーロッパから(米国へ)の知識(人)の移民」(1968年))で、“輝かしい移民”と呼ばれた有名な人物の一人です。彼女の本の中で、彼のことは直接言及されていませんが、ハロルド・ヨセフソンの編集による「近代の平和リーダーたちの伝記」(1985年)とウィキペディアにも記述があります。

アルベルト・アインシュタインはガンベルを深く尊敬し、1931年ドイツ人権連盟 (the German League for Human Rights) による、ガンベルのためのベルリンでの大規模な抗議集会にも参加しました。この展示会は、ガンベルの欧州と米国での人生や、当時の関連資料やアーカイブを数年にわたりたどった、調査チームの広範囲にわたるリサーチの賜物です。展示会の詳細 (多くはドイツ語) は、以下からご覧になれます。 [here](#) and [here](#).

カールスルーエにある団体「市民の抵抗と勇気に学ぶ」 (*Lernort Zivilcourage & Widerstand*) は、バーデンの勇敢な抵抗運動者たちについてのアニメ映画シリーズを製作しました。最近のものは、「平和と正義へのエミールの苦しみ」というガンベルについてのもので、4月にはドイツのラジオ局の4分間番組で紹介されました。そちらは以下からも視聴できます。 [Men such as Emil Julius Gumbel are needed today'](#)

この団体は、キスラウという町にある、1933~1939年ナチス体制に反対した何百という人が収容された収容所跡地に、記録と学びのセンターを設立しようとしています。詳細は新聞記事「エミール・ユリウス・ガンベルのような人物を現代に求む」で読むことができます。



「攻撃されて」：ガンベルに関するアニメのマンガ

(翻訳：山本美穂子)

ケーテ・コルヴィッツ美術館： ベルリン

ドイツで最も重要な芸術家の一人で、世界で最もすばらしい反戦芸術家の一人である、ケーテ・コルヴィッツに捧げられたこの美術館は、来年初頭、1986年に開館したベルリンの中心部から引っ越すこととなりました。



ケーテ・コルヴィッツ 1906

(credit: Philip Kester/Käthe Kollwitz Museum
Köln)

現在の建物の賃貸借契約が、2019年に終わるためです。新しい引っ越し先の、シュパンダウアー・ダム沿い（シャルロッテンブルク宮殿の反対側）の建物に移ることで、他の2つの美術館にも近くなります。ベルリン州に属すこの建物に現在入っているベルリン芸術大学は、ブランデンブルク門近くの大学のメインキャンパスに移ります。30年以上もコルヴィッツ美術館が入っていた、個人所有の19世紀の邸宅は、新しい博物館（今回であれば“亡命博物館”、上述の記事をご覧ください）の候補地に挙がっていました。詳細はこちらからご覧ください。

博物館のウェブサイトはこちらです。[click here](#). ドイツ語の詳細はこちら。[here](#) と [here](#). 芸術の新聞記事はこちらです。[here](#).

(翻訳：山本美穂子)

平和博物館：オーストリアの シュタットシュライニング

オーストリアのブルゲンラント州シュタットシュライニングにある、オーストリアの平和と紛争解決のための研究センター（the Austrian Study Centre for Peace and Conflict Resolution、以下 ASPR）は、先の5月に発行された2018年の年次報告書の「平和博物館」の章で、平和博物館を“当研究センターの必須の中核”として挙げました。アンドレアス・レーナー監修の新しい常設展“戦争の経験から平和の実践”は、2018年7月12日にオープンしました。3つの部門からなる常設展の1つ目は、街の歴史と、ユダヤ人とロマ住民が住む近隣の村々の歴史を表しています。



ASPR のロゴ

また、1938年オーストリアのドイツ国（1871～1945年）への統合の影響も扱っています。目撃者たちの証言が、その前後の生活がどのようなものであったかという印象を与えます。2つ目は、主に20世紀に活躍したオーストリアの主要な平和思想家7名の人生と平和への

貢献を取り上げています。ヘルマン・ブロッホ、ヒルデガルト・ゴス・マイヤー、フリードリヒ・ヘール、ロベルト・ユンク、ヘルベルト・C・ケルマン、ジェラルド・マダー（下記の記事参照）、そしてハンス・シリングの7名です。3つ目には、ASPRの仕事と貢献と、展覧会で語られたような状況に直面したとき、我々はどう対応するのか、また平和的な共存のために、我々はどのように貢献できるのか、というきわめて重要な問いを観覧者に投げかけます。年次報告書（英語とドイツ語版）は、以下からダウンロードできます。

[here](#) ドイツ語の情報はここ。 [here](#)

そして写真を展示しているギャラリーはここです。 [here](#).



シュタットシュライニングの平和の砦

(翻訳：山本美穂子)

オーストリアの シュライニングの平和博物館の創設者 Dr. Gerald Mader (1926-2019)

私たちは、オーストリアのシュライニングにある平和博物館の創設者のジェラルド・マダー博士（1926-2019）が5月6日に亡くなられたことを知り、残念に思っています。彼はウィーン大学での研究の後、弁護士として活躍し、

ブルゲンラント州で教育と文化の振興のために様々な団体に積極的に関わってきました。彼はオーストリア人権連盟の副会長でもあり、1983年からシュタットシュライニングのオーストリア平和紛争解決研究センター（ASPR）の創設者兼会長でした。彼はまた、1988年にヨーロッパ平和大学を設立しました。彼の人生の仕事は、シュライニングの中世の城の修復とそこでのASPRの設立、そして大学の構築でした。絵に描いたような村は、世界中の学生、平和研究者、そして教育者を魅了した「平和の村」として急速に知られるようになりました。彼はその城に平和博物館を開くという夢を抱き、1995年8月に第2回INMP会議を主催することになりました。参加者は州政府への彼の提案を支持する訴えに喜んで署名しました。彼は、その国際会議が貴重な提案をただけでなく、その訴えが公的な議論の開始に貢献し、その結果シュライニングに平和博物館の創設をするためにブルゲンラント州との合意をもたらしたと彼の回顧録に書きました。2000年そのお城が平和博物館の基礎となった「戦争か平和か：暴力の崇拜から平和の文化へ」と題した大規模な地方展覧会を主催した時に、彼の夢は現実のものとなりました。



1995年第二回INMP国際会議の参加者

マーダー博士は、確信と決心によって、そして同様にやる気のある仲間たちの助けを借りて、平和のビジョンが現実になることを実証した先見の明のある人でした。（特に彼の妻のゲルトルドさんは誰よりも彼を支えましたが、2017年に亡くられました。）彼は多くの人の生活に影響を与えました。世界の平和教育者としての彼の評判は、疑いのないものです。詳細はここ（ドイツ語）をご覧ください。 [here](#) and [here](#).



ジェラルド・マーダー博士

（翻訳：山根和代）

第二次世界大戦中のユダヤ人 迫害展 国立ホロコースト 博物館：アムステルダム

「写真によるユダヤ人の迫害：1940 - 1945年のオランダ」は、第二次世界大戦中のユダヤ人の迫害の歴史を視覚的に展示する注目すべき展覧会です。展覧会はアムステルダムの国立ホロコースト博物館において展示中で、アムス

テルダムにある 戦争・ホロコースト・ジェノサイド研究所に関わっている歴史家のエリック・ソーメルズ氏（INMP 諮問委員）と彼の同僚ルネ・コック氏が企画しています。10月末から展覧会はベルリンで有名な歴史博物館のテロのトポグラフィーで開かれます。1月の初日から、この展覧会は大成功を収めています。国際的なメディアによっても注目されています。ニューヨークタイムズ紙は、以下に示すように、最近の第一面でこの展覧会に注目しました。



ニューヨークタイムズ（2019年5月28日）

<https://www.nytimes.com/2019/05/22/arts/design/holocaust-photos-amsterdam.html>) より

展示会で展示されている写真の多くはプロの写真家によって撮影されたもので、一般に宣伝として使用するためにナチス当局から依頼されたものです。しかし、無数のアマチュアもユダヤ人の迫害と強制送還を記録した写真を撮りました。学芸員は、オランダや他の国々で数え切れないほどのアーカイブを調査し、これまでに未知の写真を数多く発見しています。展覧会は、ユダヤ人の迫害の写真による記録の概観を提示しています。それは、衝撃的で挑戦的なイメージで、ナチスの占領下のオランダで制定された反ユダヤ人対策の結果を記録しています。



1943年1月アムステルダム のラルフ・ポラックとミーブ・クラント
(New York Times の2ページの掲載写真)

写真はナチス占領政権の冷淡な行動とオランダの人々の国外追放における共同作業を示していますが、また隠れて住んでいるユダヤ人の日常生活の中で与えられた援助を記録しています。 展覧会はまた、収容所からの少数の生存者と彼らの隠れ場所から戻った人々が戦後に受け入れられた方法に注目しています。

本の英語版「ユダヤ人の迫害に関する写真集；オランダの1940-1945」は2019年7月に出版される予定です。

(<https://wbooks.com/winkel/verwach/t/the-persecution-of-the-jews-in-photographs-the-netherlands-1940-1945/>を参照して [ください](#)。)

(翻訳：山根和代)

レマーゲン橋平和博物館： ドイツ

レマーゲン橋平和博物館は、ライン川沿いの街の主要なアトラクションで

あるだけでなく、第二次世界大戦終結に向けた崩壊と批判的な役割とを担う、世界で最も有名なモニュメントの一つです。先の4月、レマーゲン橋平和博物館は（橋の一方に位置）、調査により防火法規に重大な欠陥が見つかったため、改善されるまで現在は閉館しています。レマーゲンへの訪問者や観光客に、橋の劇的な歴史を提供しようと、臨時の展覧会が近くの市役所（Rheinhalle ラインハレ）で開催されています。5月17日に正式な開会式があり、10月3日まで毎日開いています。市のアーカイブ担当クルト・クレマンと技術の専門家の協力を得て、短い期間のうちにレマーゲン橋博物館の実際のディスプレイの展示に至りました。

この展覧会が焦点を当てた一人に、1980年に博物館を設立し、健康上の理由で退くまで運営委員会の委員長を務めたハンス・ペーター・クルテン氏がいます。



観覧者を案内するハンス・ペーター・キュルテン (提供・マルティン・ガウスマン)

彼はまた、レマーゲン市の市長を25年にわたり務めたため、彼の名はレマーゲン市と博物館とに密接にリンクしています。ハンス・ペーター・クルテン氏は、臨時展覧会の開館2日前の5月

15日に、90歳の誕生日を迎えました。INMPは、平和と国際理解の素晴らしい促進者で、またINMPの温かい支援者である彼の誕生日をお祝いしました。最近の地元紙の記事については、こちらからご覧ください。click [here](#) as well as [here](#) and [here](#).

ハンス・ペーター・キュルテンの90歳を祝う記事「彼はレマーゲンに名を刻み、レマーゲンは彼の名を刻む」は、こちらからご覧になれます。'[He left his mark on Remagen and Remagen marked him](#)'.



レマーゲンの橋平和博物館

(翻訳：山本美穂子)

アメリカ合衆国平和代表团によるテヘラン平和博物館訪問

28名のアメリカ合衆国市民の団が平和代表团としてイランを訪問しました。この代表团はコード・ピンクによって組織されたもので、訪問期間は2月23日から3月3日まででした。女性により運営されているこの組織は、アメリカ合衆国の戦争と軍国主義を終わらせるために活動しています。アメリカ合衆国のイラクに対する戦争を防止するために草の根レベルの反対運動として2002年後半に設立されました。ワシ

ントン D.C.のホワイトハウスの前で冬の寒さの中、4か月不寝番を続けたことがきっかけでした。

この旅の最も重要な訪問先の一つはテヘラン平和博物館でした。イラン-イラク戦争(1980-1988)の生存者で、その負傷から障害を抱えておられる館長がこの平和代表团を歓迎してくださいました。ガイド役の方のうちお二人は化学兵器攻撃の被害者でした。そのお一人は神経や目、肺に影響を与えるマスタードガスによって負傷しておられました。点眼薬はアメリカ合衆国の経済制裁(非常に重要な薬も禁輸出対象となっている)により手に入らないためその方は玉ねぎを使って涙を流し、今も痛む目の症状を緩和させておられました。およそ8万人のイラン人がこの戦争で使用された化学兵器による被害を受けました。

平和代表团はテヘラン最大の墓地の一角も訪れました。そこには数千の戦死したイラン人兵士が埋葬されていました。その墓地には、その戦争で亡くなった無名兵士や一般市民の犠牲者、主に何の罪も犯していない子どもたちや女性たちが埋葬されている特別な場所もありました。イランのすべての家族はイラン-イラク戦争によって被害を受けています。

代表团はモハマド・ジャヴァド・ザリフ外務大臣の歓迎を受けました。大臣はアメリカ合衆国との問題の根本的な原因は、イランが1979年にアメリカ合衆国による支配を終わらせると決定したことで、その支配は、1953年8月にCIAによるクーデターが民主的に選挙で選ばれた政府を倒して以来26年間続いていたと説明されました。

こちら [here](#) とこちら [here](#) にこの訪問についてのより詳しい情報が掲載されています。

コード・ピンクについての情報はこちらに掲載されています。Click [here](#)



テヘラン平和博物館前でのアメリカ合衆国平和団体の集合写真



コードピンクの横断幕

(翻訳：赤松敦子)

ひめゆり平和祈念資料館 開館 30 周年

ひめゆり平和祈念資料館 狩俣英美

ひめゆり平和祈念資料館は、日本の一番南の島、沖縄にあります。沖縄では、74 年前、日本軍とアメリカ軍の激しい地上戦が行われました。戦いが激化する中、15 歳から 19 歳だったひめゆり学園の女学生と彼女たちの先生は、怪我をした兵士の世話をするために「ひめ

ゆり学徒隊」として野戦病院に動員されました。戦場での度重なる危険により、100 名以上のひめゆりの生徒と先生が激しい戦いの中で命を落としました。

彼女たちの戦争体験や亡くなった友や先生の記憶が忘れられることのないよう、ひめゆりの生存者は、資料館を建設し、命を落とした学友たちの鎮魂のために尽力してきました。現在、設立者の平均年齢は 90 歳を超え、ひめゆり平和祈念資料館の運営のバトンが戦争経験のない新しい世代へと引き継がれ始めています。

2019 年、ひめゆり平和祈念資料館は開館から 30 周年を迎えます。この記念の年を祝うために、資料館では、当館の 30 年を振り返る特別展示やプロモーションビデオの公開など様々な企画を準備しています。プロモーションビデオ（英文字幕付き）は、こちらからご覧いただけます

<<https://www.youtube.com/watch?v=tQMTA5PucBs>>。さらに 4 月には、遺族を対象としたフィールドワークを初めて開催しました。

また、別の新たな取り組みとして、ひめゆり平和研究所では、ニュースレター第 1 号を発行しました。資料館の様々な活動を写真付きで紹介しています。ニュースレターはこちらからご覧いただけます。

<http://www.himeyuri.or.jp/JP/etc/04_Himeyuri_Newsletter_2018_01.pdf> さらに情報が知りたい方は、公式サイトをご確認ください

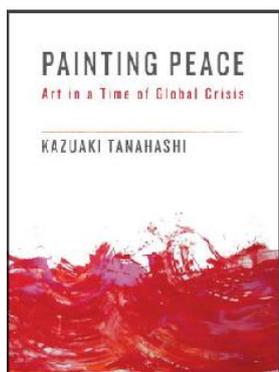
<<http://www.himeyuri.or.jp/EN/info.html>>.



ひめゆり平和祈念資料館
(英語版と異なりますが、こちらが元原稿です。)

「平和か戦争か」展を 主催して頂けませんか

アメリカに住む日本人の作家、棚橋一晃による、三十年にわたる芸術作品を集めた「平和か戦争か」展を、軍隊のない世界計画（アメリカ、カリフォルニア州バーグレー市に本拠をおく平和団体）が、制作しました。同作家の絵、ポスター、幕、車用ステッカーのテーマは、核軍拡競争、原子力発電、湾岸戦争、米国の北朝鮮攻撃、人口爆発、気候変動反対から、内なる平和、銃のない社会、国際友好、公正な民主主義のすすめに及んでいます。

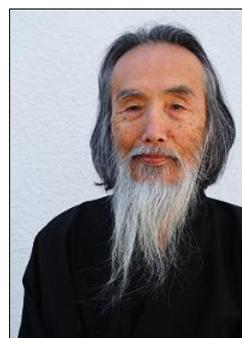


最初の展覧会は、2019年1月に、ナガサキ・ピースミュージアムで開かれました。NIMP 会員の平和美術館、あるいはその関係の団体の皆さまが、こ

の「平和か戦争か」展の主権をご考慮下されば幸甚です。展覧会カタログ（日本語版または英語版）は、下記ウェブサイトに掲載してあります（ダウンロード自由）。

私どもは主催団体にご当地までの作品の送料を負担していただくことと、次の主催者の準備ができるまで、作品を預かっていただくことをお願いしています。作品とそれを入れた箱の大きさと重さ、そのほか巡回展「平和か戦争か」についての詳細は、下記ウェブサイトをご覧ください。

www.AWorldWithoutArmies.org



Kazuaki Tanahashi (credit: Mitsue Nagase)

ライプティヒ（ドイツ）の オノ・ヨーコ「平和は力」展

4月4日から7月7日まで、ライプティヒ造形美術館(MbdK)で、日系アメリカ人アーティスト、オノ・ヨーコさんの個展が催されています。5年前、彼女の誕生80歳を機にフランクフルトで回顧展が催されて以来の、最も大規模な展示会です。

彼女は影響力がありますが、評価も分れるアーティストの一人です。コンセプト・アートの開拓者であり、ニューヨークで1960年代に生まれたフルク

サス（前衛芸術運動）の、先駆者の一人とみなされています。商業美術、エリート主義、芸術、社会慣例への反逆精神をもつ運動のルーツは、ダダイズム、未来派、シュルレアリスムなどのアバンギャルトにあります。

世界は変え得るのだという、人間の精神力への信頼は不屈で、彼女のアートは、より良い世界、ユートピアは実現可能であることを示しています。宇宙の万物は繋がっているという信念は、彼女の人生や作品に満ちていて、常に空気、水、地面、火などが表されています。

環境とフェミニズムは、彼女の作品の重要な特徴です。ライブティヒ造形美術館が作品展を催した理由の一つは、ライブティヒがドイツ女性の人権問題の発祥地だからです。今回の展示の主要なテーマは、戦争と平和の力のバランスです。およそ 70 の作品群は主に彼女自身が選んだもので、インスタレーション、フィルム、フルクタス、パフォーマンス、そして少しばかりの描画です。彼女の作品の多くがそうであるように、今回の「平和は力」展も参加型です。

1980 年に暗殺された、彼女の夫だったジョン・レノンは、一つのビデオ・インスタレーションに登場しています。

もっと情報を得たい方、作品のいくつかを観たい方は、この[サイト](#)をご覧ください。



オノ・ヨーコの作品の一部
(credit: Andreas Schmidt)

特別展「カティンの森事件 —22,000 人のポーランド人 将校の行方—」 ピースおおさか

ピースおおさか主任専門職員
駒井詩子

ピースおおさか（大阪国際平和センター）は「大阪空襲を語り継ぐミュージアム」として 2015 年に、1991 年の開館以来、初めて常設展示のリニューアルを行いました。次代を担う子どもたちが、大阪と戦争の関係や身近な地域に起こった空襲の事実を通して、戦争の悲惨さ、戦争の背景を理解するとともに、平和を自分自身の課題として考えることができる展示を目指しました。現在、来館者の 7 万人のうち約 6 割が小中学生であり、学校教育の中の平和学習の一環としてピースおおさかが利用されています。



ピースおおさかでは、常設展示の他、特別展示、終戦や開戦の日などの節目の時期に平和祈念事業を行っています。2019年は日本とポーランドの国交樹立100周年にあたることから、それに関連した講演会や映画上映会などを開催しました。

なかでも、特別展示ではカティンの森事件をテーマにしたパネル展を行いました（2019年3月1日～5月12日）。この事件は、第二次世界大戦中の1940年に起こったもので、約22,000人のポーランド人将校が消息不明になり、1943年にカティンの森でこれらの将校の遺体が発見されました。事件は戦後の共産主義下のポーランドでは語られることはなく、真相が明らかになったのは1989年の民主化以降でした。

この特別展の企画は、私がポーランド滞在中に現地の戦争体験者にインタビューをするなどをして研究したもので、今回の展示においては事件の遺族や関係団体などの協力を得て実現させることができました。

展示を見た来館者のアンケートの中には、「初めてカティンの森事件を知った」という記述が多々あり、展示を通してポーランドが辿った戦争の歴史に

触れる機会を作ることができたことに成果をあげることができたのではないかと思います。そして、現地の新聞でも取り上げられ、ポーランド国内においてもピースおおさかの存在を伝えることができました。



「特別展示が掲載されたポーランドの新聞記事」

カティンの森事件は79年たった今も完全には解決しておらず、「過去の清算」、「歴史認識の共有」という点では、国家間のみならずポーランド人の心にしこりとして残っています。次のステップに進むのにはまだまだ時間が必要かもしれません。これらの事業を通して「ピースおおさか・大阪国際平和センター」の「国際」という言葉にちなんで、世界の戦争に関する展示会を開催することができました。今後も、ピースおおさかが世界の平和に貢献できるよう、平和の発信基地として努力していきたいと思っています。

天安門広場事件の記念館が 香港で

30年前の1989年6月4日、民主改革を求めて平和的なデモをしていた何百、あるいは何千の学生や市民が虐殺されました。中国北京の天安門広場での、戦車による軍隊の弾圧でした。中国では今も厳しい検閲が続き、この事件はタブーになっています。



20以上の戦車が燃えた後、現場での住民
(credit: AFP-JIJI)

だから30年前以降の世代は、中国の現代史上の、この不吉でひどい事件についてほとんど知らされていないのです。それで、香港の記念館が、この悲惨な事件を風化させないために設立されました。香港には（少なくとも当面）、中国本土では許されていない市民の自由がありますから。この小さな六四記念館が、アート作品、ビデオ、写真、印刷物、そして体験者の証言を通して、残虐事件を記録する世界で唯一の場になっています。香港は、天安門の活動家たちが中国本土から逃げるのを手伝う、重要な役割を担っていました。記念館は、香港の目立たないオフィスビルの10階にあります。元々、移動展示から始まり、2014年にチムサーチョイの商業地域に常設されました。けれども、運営している香港支連会（香港市民支援愛国民主運動連合会）は、地権管理の嫌がらせを受けて、2016年に館の閉鎖に追い込まれたのです。

2019年4月26日の再開3週間前には、館の設備が破壊されました。また、オープニング当日には、北京擁護者によって入口が封鎖されました。ビデオや報道記事などの情報は、これらのサイト(1, 2, 3)でご覧いただけます。



ジェフ・ワイデナーの有名な写真「戦車男」
(credit: Jeff Widener/AP)

1989年の中国ABC放送の6分間ニュースでは、元の映像を見ることができます。最近のレポートは、これら(1, 2)のサイトで。また、ジェフ・ワイデナーさんの有名な写真「戦車男」についての5分間ビデオは、[ここ](#)でご覧いただけます。

事件から30年を機に、台湾のアーティストのシェイク（Shake）さんが、バルーンで巨大な「戦車男」を創りました。天安門広場で車両部隊の前に立つ一人の抗議者の姿です。この作品は、台湾の首都、台北の蒋介石記念ホールに展示されています。報告記事は、この[サイト](#)でご覧になれます。 [here](#).



香港の六四記念館 (credit: picture-alliance/NurPhoto/V. Yuen)

独裁政権下の女性への暴力、 ESMA 博物館、アルゼンチン

人権グループは、アルゼンチンの軍事独裁政権と、俗に“汚い戦争”（1976～1983年）と呼ばれた内戦下で、3万人以上の市民が収監され、拷問され、処刑されるか行方不明となったと推測しています。最大の秘密刑務所と拷問所（5千人の捕虜収容と推測される）が、ブエノスアイレスにある ESMA でした。150名を除く全てが、尋問や拷問の最中に、もしくはその後に死亡しました。犠牲者のうちには、大西洋に投げ込まれたり、“死の飛行”と呼ばれた、飛行機からラプラタ川へ放り出されたりした者もいました。ESMA とは、もともと海軍技術学校の頭文字をとった言葉です。2015年に、かつての秘密刑務所と処刑所の複合施設は、記憶のための空間と人権擁護と促進のための博物館へと変わりました。その数年前、処刑所の建物は、かつてそこで行われた拷問や処刑の証拠を消そうとする運動や脅威にさらされていました。

3月、新しい特別展「ESMAの中で女性であること—過去を振り返る証言」が始まりました。そこには、独裁政権時代、女性であることに由来する暴力について、28名の女性の悲惨な証言があります。写真やビデオを含むこの展覧会は、ESMA でおこったおぞましい出来事を語るのに、この博物館がジェンダー（性）の視点を適切に扱えていないという、女性と若い世代からの要求を受けての展覧会です。女性たちは、独裁政権下に左翼と疑われたからでは

なく、単純に女性であるということだけで暴力に苦しんだのだと悟りました。女性たちは、ただ戦利品や性奴隷として扱われたのです。2017年4月、ESMA博物館が世界遺産に登録されるよう、公式にユネスコに申し込まれました。詳細は、こちらからご覧ください。

[here](#), go [to this link](#), go [here](#) and [here](#).



特別展のオープニングで話す学芸員 Alejandra Dandan (右) (提供: Daniel Jayo/AP 通信)

(翻訳: 山本美穂子)

エヴァーズ夫妻の家が アメリカ合衆国国定史跡に 指定される

メドガー・エヴァーズとマーリー・エヴァーズはアメリカ市民権運動の最も偉大な指導者たちの中に含まれると広く認められています。ミシシッピ州ジャクソンにある夫妻の自宅は、今は博物館になっています。

メドガー・エヴァーズ(1925-1963)は第二次世界大戦の退役軍人で、ヨーロッパ戦線で戦って故郷のミシシッピに帰ると、また激しい人種隔離に直面しました。故郷で、退役軍人としての彼の地位は彼を人種差別の暴力から守る

のにはほとんど役に立ちませんでした。例えば、彼は地元の選挙で投票しようとしたとき、銃を突き付けられて車で連れ去られました。また、ミシシッピ大学に入学を希望し、願書を提出しましたが、当時人種隔離主義を採っていたこの大学はエヴァーズの入学を拒否しました。

この経験からエヴァーズは全国有色人種地位向上協会(NAACP)に関わるようになりました。そしてその団体に入ったことから、後に彼はミシシッピ大学の人種隔離主義制度廃止運動のリーダーになりました。その後すぐに彼はNAACPのミシシッピ州最初のフィールド・オフィサー(州支部代表)に任命されました。彼は人種差別に反対するボイコットを主導し、アフリカ系アメリカ人に対する暴力を調査しました。



エヴァーズ夫妻の家博物館
(アメリカ合衆国国立公園局提供)

彼の命を奪おうとする人種差別主義者の試みは、1963年6月12日に、エヴァーズがジャクソンにある質素な牧場風の自宅の外で殺されたとき、ついに達成されました。

マーリー・エヴァーズは夫の死後、自分の能力でNAACPの仕事を通して市民権運動のリーダーとして頭角を現し、1995年にはNAACPの全米代表になりました。

1998年に彼女はジャクソンにメドガー・エヴァーズ協会を設立しました。その最初の目的は夫の生涯の仕事の遺産を保存し、前進させることでした。彼女の果たした指導者としての役割を表彰し、またメドガーの死後50年を記念して2013年にこの協会の運営委員は協会名をメドガー・マーリー・エヴァーズ協会に変更しました。

エヴァーズが暗殺されてから遺族はその家から引っ越し、長年空き家になっていました。1993年に遺族はその家を伝統的に黒人生徒が多いトゥガル大学に寄贈しました。大学側は家を修復し、見学者に案内しています。2016年にアメリカ合衆国国立公園局がこの家を国定歴史建造物として指定しました。3年後、アメリカ合衆国大統領がエヴァーズ夫妻の家をジャクソンの国定史跡として制定する法案に署名しました。この指定のおかげでこの家の保存と維持、そして来館者へのサービス向上のための資金がもたらされるでしょう。来館者の皆様がこの博物館で、メドガーとマーリー・エヴァーズが正義と平等と自由のためにした仕事について学び、感動し、刺激を受けてくださいますようにと運営スタッフ一同願っております。こちらにより詳しい情報が掲載されています。[here](#) こちらの3つのサイトにも資料があります。[here](#), [here](#), [here](#).



メドガー・エヴァーズとマーリー・エヴァーズ
(ミシシッピ州公文書歴史局提供)

(翻訳：赤松敦子)

デイトン国際平和博物館 (オハイオ州)

2004年5月27日の開館から15周年を迎えたデイトン国際博物館に、INMPは心からお祝い申し上げます。読者のみなさまには、同博物館のウェブサイトにて、彼らのさまざまな取り組みやイベント、色とりどりの写真を見ていただくことをおすすめします。最近のイベントとして、博物館では、デイトン評議会のメンバーによる国際問題に関する会議が行われ、J・フレデリック・アーメント（同館の5人の設立者のひとり）が平和国際都市(ICP)について語りました。アーメントが2009年に設立したICPは、現在、6大陸、54カ国からの242の地域メンバーで構成され、毎月、新たな地域が加入しています。世界中のコミュニティで取り組まれている活動の中で、紛争の解決、持続可能な農業、文化面の教育、孤児へのケア、戦争の女性被害者への支援、また、すべての人々の安全、福祉、人生の質などを向上させるための多くの取り組みについて話し合われています。

ICPの10周年にも心よりお祝い申し上げます。2025年までに1,000メンバーとの交流づくりを目標に掲げる彼らに幸運を祈ります。



デイトン平和博物館では、「国境線：アメリカとメキシコの“壁”展」という写真展を開催しました。今回の展示会は、オハイオ州立大学のケニース・マセン教授により企画されました。教授は、20年以上に渡り、国境沿いのすべての州を訪ね、国境間のフェンスを写真におさめてきました。

本展示は、このタイムリーな話題を、広く、事実に基づいた視点で表現しています。例えば、2,000マイルにも及ぶ国境間のフェンスが、さまざまな形式や素材で作られていて、色々な種類があると知ることができます。さらに情報が知りたい方は、以下のサイト①、②、③をご参照ください。

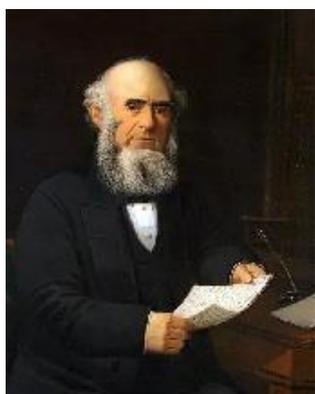


デイトン国際平和博物館の設立者と支援者

(翻訳：狩俣英美)

トレガロンにてヘンリー・リチャード展（ウェールズ）

ヘンリー・リチャードに関する常設展示が、イギリス南ウェールズのケレディジョン地区にあるトレガロン旧市街にて最近オープンしました。ヘンリー・リチャード(1812年-1888年)は、「平和の使徒」として知られ、19世紀イギリスにおける重要な指導者のひとりであり、国際的な平和活動家でもありました。彼は積極的な発言をする国際的な仲裁者でもあり、さまざまな国際平和会議への活発な参加者でもありました。そして、精力的な反戦ジャーナリスト兼作家でした。1848年、彼は、平和協会の書記官に任命され、約40年間、その職を勤めました。また、イギリスの帝国主義的、軍事的、搾取的なアジアやアフリカへの進出を強く非難した人物でもあります。さらに、国会議員でもあった彼は、自国の議員だけでなく、その他のヨーロッパ議員にも軍備縮小の提案を勧めました。リチャードは、約半世紀にも渡り、継続的に戦争反対を訴え、守るための平和、軍事縮小、仲裁を唱えてきました。



ウィリアム・ギリース・ゲアによるヘンリー・リチャードの肖像画（シファースファ・キャツスル・ミュージアム所蔵）

常設展示では、ヘンリー・リチャードの素晴らしい人生の物語を伝えるための出版物や、写真、肖像画が展示されています。本展示は、1600年代から続く宿屋であったタルボット・ホテルのラウンジやロビー、通路にて開催されています。このホテルの前には、1893年にトレガロンで最も有名な人物であるヘンリー・リチャードの像が建てられました。そのため、このホテルは、最適な展示会場であると言えます。オープニングセレモニーには、長い間イギリスの平和運動を牽引してきたブルース・ケントや、ヘンリー・リチャードの子孫などが参加しました。さらに詳しい情報は、[こちら](#)から。



タルボット・ホテル前に建つヘンリー・リチャードの像（リン・ダフィス提供）
（翻訳：狩俣英美）

新刊案内

(1) 2018年版公式米国博物館一覧

最新の『2018年版米国公式博物館一覧』が全米博物館協会との協力によりNRP ディレクト社から出版されましたが、その内容から平和博物館や反戦博物館は珍しい、目立たない存在であるということがわかります。

この本は 2500 ページ以上という大変なボリュームがあり、「米国の博物館のコミュニティに関する最も正確で詳細な記述で、15,300 以上の博物館を取り上げているということが特色」と説明されています。

この本の大部分はアラバマ州から米国領ヴァージン諸島まで、州ごとの（各州のカテゴリーの中は都市ごとの）博物館の記述と一覧表から成っています。その後アルファベット順ですべての博物館の名前が索引に並べられています。その後博物館の種類別の二つ目の索引があります。主な博物館の種類としては美術館（更に8つのタイプに分類）、子ども向け博物館、歴史博物館（9つのタイプ）、科学博物館（18のタイプ）が挙げられています、歴史博物館のカテゴリーの中にはおよそ650の軍事博物館が下位カテゴリーに取り上げられています。また、40の専門的なカテゴリー、例えば農業、衣装、貨幣、スポーツ、演劇、木彫などの博物館のリストも掲載されています。その専門的なカテゴリーの一つに銃博物館も挙げられており、50の（つまりおよそ1州につき1つの割合で）銃関係の博物館がその項に掲載されています。

上位カテゴリーの中にも下位カテゴリーの中にも、平和、非暴力、反軍事主義、反戦に関連するものはなく、読者がすでにその博物館を知っているでなければ、この分野の博物館を見つけることは不可能な構成になっています。デイトン国際平和博物館（前出の記事参照）がこの一覧の中で唯一平和博物館として記述されているようです。



American
Alliance of
Museums

全米博物館協会のロゴ

デトロイトの刀を鋤に・ギャラリー&平和センターは美術館として記述されています。アトランタにあるマーティン・ルーサー・キング Jr.非暴力による社会変革センターは歴史博物館として記述されています。シカゴのジェイン・アダムズ・ハル・ハウス博物館は歴史的建造物とされています（ジェイン・アダムズ・ハルは米国初の女性のノーベル平和賞受賞者ですが、この博物館に関する記述には平和の文字は見当たりません。）

より詳しい情報についてはこちらの2つのサイトをご覧ください。 [here](#)、[here](#)

(2) キンバリー・A. ベイカー

キンバリー・ベイカーの最新の記事「平和への案内図：紛争地帯の博物館」が『カナダ芸術教師』という雑誌に掲載されました。（第16号2018年第1号 pp. 36-47）近日中にこちらに [here](#) アップロードされる予定です。

この記事には著者の2015年に始めて4年以上継続している（内5か月はケニヤでの現地調査を含む）博士論文研究の概観を記述しています。

この研究は、アカンバ、アエンブ、ポコット・マサイの先住民族の芸術と

平和に関する先祖伝来の智慧による平和構築の実践について探求することにより、進歩的な平和構築の手法とは正反対とも言える手法を紹介しています。



この記事からは、西洋の進歩的な平和構築の伝統と比べて、先住民族の伝統が平和構築においてどのようにより重要な可能性を持ちうるのかについて意義深い洞察を得ることができます。地域共同体平和博物館遺産基金(CPMHF, 2018年12月INMPニューズレター No. 25 参照)の学芸員は、先住民の平和に関する遺産を活用して現代の紛争を解決すること、そして平和の価値観を展示や、学校や一般大衆向けの教育プログラムで育てることによって、近代的な紛争調停者として行動します。西洋の平和博物館はCPMHFが示している例から学ぶべきことがたくさんあります。著者は来年、第10回平和博物館国際会議でその研究に基づいて発表する予定です。

キンバリー・ベイカーはブリティッシュ・コロンビア大学教育課程・教育学学部 に在籍する博士論文提出志願者です。連絡先は kbaker.ubc@gmail.com です。キンバリー・ベイカーによるも

う一つの記事、「平和への案内図：紛争地帯の博物館」はマリリン・ズルミュエレンの『芸術教育における研究成果報告書』(2018年号, 記事2)に掲載されており、こちらで読むことができます。 [here](#)

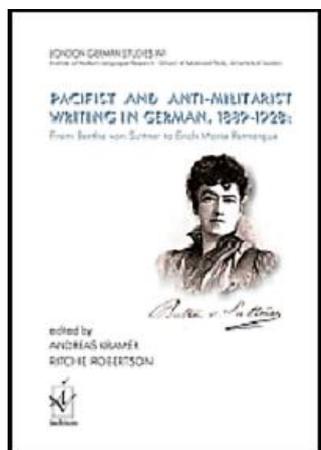
(3) エルンスト・フリードリヒ

1925年にベルリンに最初の国際反戦博物館を創立する以前にも、ドイツ人の反軍国主義者で平和教育者であるエルンスト・フリードリヒは書籍の出版後すでに名声を得ていました。その『戦争に反対する戦争!』という本は第一次世界大戦の衝撃的な写真を掲載しており、1924年に初版が出版されました。(坪井主税・ピーター・ヴァン・デン・デュンゲン訳編の日本語版が1988年に東京で出版されています)

この本に掲載されている「写真・プロパガンダ・平和主義」という題のマティアス・ウェッカーによる小論が、最近出版された本に掲載されました。その本には、戦争への反対と軍国主義について調査したドイツ語圏の広範囲な分野の著者の報告が集められています。その20ある事例研究のおよそ半分はドイツ語で、残りは英語で書かれています。アンドレアス・クラマー、リッチー・ロバートソン編『平和主義者と反軍国主義者によるドイツ語文献1889-1928: ベルタ・フォン・ズットナーからエーリヒ・マリア・レマルクまで』をご参照ください。

こちらに [here](#) より詳しい情報が掲載されています。この本はインターネット

ト上に公開されており、こちらから [here](#) 無料で pdf データがダウンロードできます。



この通信は、ピーター・ヴァン・デン・デュンゲン、山根和代、安齋育郎、キヤ・キムによって編集されました。

また日本語版の翻訳は、赤松敦子さん、寺沢京子さん、山本美穂子さん、狩俣英美さん、山根和代が担当しました。この通信は、INMP の個人と組織をつなぐ重要な場です。また INMP の会員ではない方が世界の平和博物館の活動を知る上で、大変重要です。

以前発行された通信は [INMP の新ウェブサイトで読むことができます。](#)

<http://tinyurl.com/INMPMuseumsForPeace/>

INMP の通信は年に 4 回発行されますが、定期的に読みたい方は、メールアドレス

スを次のメールにお知らせ下さい。
inmpoffice@gmail.com

2019 年 9 月に発行される次号に投稿したい方は、2019 年 8 月 15 日までに原稿をお願いします(英文で 500 語以内、日本語の場合 1000 字以内、写真 1-2 枚)。直接英語による原稿を書くことに困難がある場合には、以下の INMP 日本事務局にご相談ください。

inmpoffice@gmail.com

INMP コーディネーターの お知らせ

INMP の会費と寄付を お願いします。

INMP の財政はみなさまの会費と寄付によって成り立っています。私たちは来年 9 月 16-20 日に第 10 回国際平和博物館会議を開催する予定で、しっかりとした財政基盤を築く必要があります。これまですでに会費を支払った方は感謝申し上げます。まだの方は、よろしく申し上げます。ペイパルの方は、次のところに送金して下さい。

[INMP PayPal \(business account\)](#)

Name: INMP OFFICE

INMP email address:

inmpoffice@yahoo.co.jp

そうでない方は下記にご連絡下さい。

inmpoffice@gmail.com

*日本の方は、年会費 2000 円を下記宛に振り込むようお願いいたします。

送金先

INMP 郵便局 振込用口座番号

記号 14480

番号 49799181

名前 アイエヌエムピー

他金融機関からの振込の場合

銀行名 ゆうちょ銀行

店名 四四八（ヨンヨンハチ）

店番 448

普通預金

口座番号 4979918